

初級日本語補講コース学習者の学習目標と自己評価

— 受講生に対する学期途中のアンケート調査から —

堀 恵子

要 旨

筑波大学留学生センター初級補講コースの受講生を対象に、具体的な学習者像を知るために、受講理由と将来的な学習目標、自己評価などについてアンケート調査を行った。その結果、①初級中期、後期の学習者は自宅学習時間が相対的に長いこと、②受講理由と学習目標に関して、初級中期、後期の学習者はより高い目標を持っていること、③自己評価に関して、3つの下位尺度のうち「難しい言語行動」は初級後半でもできると感じていないこと、④学習目標と自己評価との間にギャップがあること、の4点が明らかになった。

【キーワード】 受講理由 学習目標 Can-do statements 自己評価 言語行動 学習時間

Learning Objectives and Self-evaluation of Learners in the Introductory Japanese Courses at the International Student Center of the University of Tsukuba : results of a questionnaire conducted in the middle of the term

HORI Keiko

【Abstract】 In order to understand the learners in the Introductory Japanese Courses at the International Student Center of the University of Tsukuba, I conducted a questionnaire survey on the learners' motives, future learning objectives, and other items. The main findings are ; (1) Advanced beginners' study time at home is relatively longer than that of introductory beginners ; (2) Advanced beginners have relatively high objectives ; (3) Self-evaluations consisted of three subscales : 'writing ability', 'easier language activities', and 'difficult language activities'. (even advanced beginners do not have confidence in regard to 'difficult language activities') ; (4) There is gap between learners' objectives and their self-evaluations.

【Keywords】 learning motive, learning objectives, can-do statements, self-evaluation, language activities, learning time

1. 背景と本稿の目的

筑波大学留学生センター補講コースのうち、初級はJ100からJ400までの4コースからなる。テキストは日本語初級教科書『Situational Functional Japanese』(以下、『SFJ』)をコンパクトにまとめた『初級日本語』(全24課)を用い、1学期で6課進む。筑波大学は3学期制を取っているため、J100から始めて、最速で4学期で初級レベルを終えることができる。

加納(2008)によると、近年短期留学生が増加しており、一般日本語力の強化や日本文化理解を深める教育に対するニーズがある。同時に、大学院受験を目指す研究留学生のアカデミックな日本語を学ぶニーズも依然として高い。

一方、受講生のおよそ半数を占める正規生(学群生、大学院生)に対して指導教員が求める日本語力は、指導教員へのアンケート調査(酒井 2004)によると、日常生活では「話すこと」と「聞くこと」は、「必要」「できれば必要」合わせて100%近くであった。これに対し研究においては、「講義を聞く」「ゼミを聞く」は100%近くが「必要」「できれば必要」と答えたが、それ以外の技能は専攻によって大きく事情が異なっていた。理系だから日本語が必要ないというわけではなく、学系によって異なることが自由記述からうかがえた。

さらに、各コースでは学期途中に授業を放棄する学習者(ドロップアウト)がいる。専門の勉強が忙しく、学習時間が取れないなどの何らかの事情によると考えられるが、自宅学習にどのくらいの時間が割けるのかは調査されていない。また、学習者自身の受講理由や、日本語を使って何ができるようになりたいかという将来的な学習目標について十分明らかになっていない。

このように受講生の多様化と留学生を受け入れる側の要求も多様である中、補講コースを受講している学習者自身はどのような理由で受講し、学習目標をどこに置いているのであろうか。また、受講しているコースの目標に対してどれだけできると自己評価しているのであろうか。学習者のニーズや目標など学習者像を具体的に知ることは、授業活動の改善に反映され、学習を促進させる原動力となり得る。また、日本語学習を希望する学習者が一人でも多くドロップアウトせずに学習を続けていくことにつながる可能性もある。

これまで学習者の受講理由については、予備教育の夏学期コースのような特定のコースにおいては調査されている(石上ほか 2011)が、初級全体の学習者を対象に調査したものはない。

また補講コースでは、2004年度からコース終了前に担当教員が授業を改善することを目的として受講生に対するアンケート調査を行っている(木戸2006)。そこでは授業全般について問う中で、受講生自身の学習意欲について尋ねる項目がある。しかし、それ以外は授業の内容や方法、教材に関して役に立ったか、満足しているかなどを問う項目のみである。受講生自身の学習目標などを問うものではない。

以上から、本研究では初級補講コースの学習者像を具体的に知る手がかりとして、4コースの受講生を対象に、受講理由、日本語学習の将来的な学習目標、自宅での学習時間、日本語能力に対する自己評価について調査を行う。

2. 初級補講コースの概要と受講生

2.1 初級補講コースの概要

初級補講コースは、J100がいわゆるゼロ初級、J200が初級前期、J300が初級中期、J400が初級後期である。各コースとも「日常場面で必要なコミュニケーション能力の養成と定着を図る」¹⁾ことを目標としている。

4コースとも、授業は1コマ75分、週に5コマ、1学期に10週行っており、時間になると1学期約62時間となる。また、週1コマ漢字クラスを併せて履修することができる。各コースとも異なる時間帯に3クラスが開講されており、専門の授業などを考慮してクラスを選ぶことができる。新規の学習者はプレースメントテストを受けてコースに分けられるが、学期はじめにはレベル変更をコーディネーターと相談することもできる。

テキストは、前述のように『SFJ』Drillsをコンパクトにまとめた『初級日本語』と『SFJ』Notesとを用いる。副教材としては、聞き取り練習用の『わくわく文法リスニング』のほか、留学生センターの教員が独自に作成した新出語、文法、作文、聴解、発音練習、会話などのための副教材を使用している。

学習者には授業の予習と復習が課せられる。授業前には『SFJ』Notesの当該部分を読んで文法項目を理解し、テキストの新出語を覚えるようにする。そして、文法理解は「Grammar Check」によって、新出語の理解は「Vocabulary Check」あるいは「New Words Quiz」によって測られる。授業後も復習のための教材やクイズ、会話の産出テスト（オーラルチェック）の準備などが要求される。これらのことが日常的にこなせなければ、授業についていくことは難しい。

2007年に補講コースのカリキュラムが改編されて以来、カリキュラム自体は変化していないが、クラス数、授業内容、副教材、テストなどはその都度状況に合わせて改善の工夫がなされてきている（小野寺2008、永井2009、関2010、加納ほか2010）。

2.2 初級補講コースの受講生

補講コースを受講できるのは、研究生（教員研修留学生を含む）、短期留学生、正規の学生（学類生、大学院生、G30²⁾）、日本語研修生（日韓共同理工系学部留学生を含む）、日本語・日本文化研修留学生、その他留学生センター長が適当と認める者である。前述の加納（2008）の指摘のように短期留学生が増えており、2012年1学期に初級補講コースに登録した128名の内訳は、研究生44名（34%）、短期留学生5名（12%）、正規生64名（50%）、

その他5名(4%)であった。ただし、毎年2学期には受講生が1学期よりもかなり多くなり、割合も変動するため、必ずしもこの割合が典型的とは言えない。

毎学期受講登録直後の一定期間には、前述のようにコース変更の相談をすることができ、また何らかの理由によって登録を取り消したい受講生は、それもできる。しかし、その期間を過ぎて受講していたにもかかわらずドロップアウトしていく学習者は、2011年3学期にはクラスによって8%から46%に上った。3クラスを平行して開講しているため、クラスによっては出席者が2、3名程度となることもあり、授業のやり方に影響が出ることがあった。

3. アンケート調査の目的と項目の作成

以上の背景のもと、毎学期学習者に合わせて行われている教材や中間・期末テストの改善がより効果的になることと、開講時に学習意欲を持っていた学習者が少しでも多くドロップアウトせず学習を続けていけることを目指し、学習者像を具体的に知ることを目的として、アンケート調査を行う。

調査項目は、1) 学習者の受講理由、2) 学習者の将来的な学習目標、3) 学習時間、4) コースの目標に対する自己の能力の評価とした。回答者の情報として、受講しているコースと母語を合わせて尋ねた。回答の負担を減らすため、1) から3) は二肢選択とした。4) はCan-do Statements (以下、CDs) で、「～ができますか」という問いに対し、「問題なくできる」「ある程度できる」「どちらとも言えない」「あまりできない」「全然できない」の5件法での回答とした。

3.1 受講理由の項目作成

受講理由は、日常生活に関わる一般的な事柄、大学生として勉学にかかわる事柄、日本文化に関わる事柄、日本での就職などから下記の10項目を作成した。

表1 受講理由の項目

日常生活に関わる一般的な事柄	問101 日本語に興味があるから。
	問102 日常生活で日本語が必要だから。
	問103 日本人と話せるようになりたいから。
大学での勉学に関わる事柄	問104 入試のために日本語が必要だから。
	問105 専門の勉強のために日本語が必要だから。
日本の文化に関する事柄	問106 日本の文化に触れてみたいから。
	問107 日本を旅行してみたいから。
日本での就職	問108 将来日本で働きたいから。
その他	問109 時間があるから。
	問110 その他

3.2 将来的な学習目標の項目作成

学習目標は、大学生としての日常生活に関わる事柄、勉学にかかわる事柄、日本文化に関する事柄、について4技能にわたって項目を作成した。すべての技能を網羅したわけではなく、現実的な主なものを取り上げた。

表2 将来的な学習目標の項目

大学生の日常生活	全般	問201 日本での日常生活にこまらなくなりたい。
	全般	問202 大学のサークルに参加したい。
	話す、聞く	問203 日本人の学生や先生と日常の話題について話したい。
	書く、読む	問204 日本語でメールが書けるようになりたい。
	読む	問205 学内の掲示板や事務的な書類が読めるようになりたい。
日本の文化に関わる事柄	聞く	問206 日本語のテレビや映画が分かるようになりたい。
	読む	問207 日本語の小説や新聞が読めるようになりたい。
大学の勉学にかかわる事柄	聞く	問208 日本語の授業が聞けるようになりたい。
	話す、聞く	問209 日本語で専門の発表や質疑応答ができるようになりたい。
	書く	問210 日本語でレポートや論文が書けるようになりたい。

3.3 学習時間の項目

2.1に示したように、補講コースの授業では学習者に予習、復習を課している。そのため、十分な時間が取れない学習者は授業について行けなくなることにもなりかねない。そこで、30分刻みで学習時間を尋ねる項目を作成した。

- ① 30分以下、② 30分から1時間、③ 1時間から1時間半、④ 1時間半から2時間、
⑤ 2時間以上、⑥ 毎日勉強することはできない。

3.4 コースの目標に対する自己評価の項目作成

初級補講コースの全体的な目標は、「日常場面で必要なコミュニケーション能力の養成と定着を図る」ことであるが、開講にあたって受講生に配られるオリエンテーション資料では、さらに具体的な目標を掲げている(表3)。

表3 初級補講コースの目標（オリエンテーション資料より）

J100	J200
日常的で具体的な話題についてコミュニケーションができること (1)基本的な文法を理解して会話ができること (2)ひらがなとカタカナが読めて書けること (3)簡単な日本語の読み書きができること (4)簡単なプレゼンテーションができること (5)コミュニケーションに必要な文化的な知識を学ぶこと	日常的で具体的な話題についてコミュニケーションができること (1)基本的な文法を理解して会話ができること (2)簡単な日本語の読み書きができること (3)習った文法や語彙、話すスキルを使って簡単なプレゼンテーションができること (4)コミュニケーションに必要な文化的な知識を学ぶこと
J300	J400
(1)日常的で、具体的な話題についてコミュニケーションができる。 (2)簡単な日本語を読んだり書いたりすることができる。 (3)日本語で簡単なスピーチをすることができる。	(1)日常的で、具体的な話題についてコミュニケーションができる。 (2)簡単な日本語を読んだり書いたりすることができる。 (3)簡単な日本語で意見を言ったり意見を交換したりすることができる。

「日常的で具体的な話題についてコミュニケーションできること」とは、『SFJ』の各課の場面において適切なコミュニケーションができることである。もちろん導入された文法、文型は他の場面でも使え、授業中にはモデル会話以外の話題においても産出する練習を行っているが、各課の学習を通して実際にできることまでを目標としている言語行動は、モデル会話で取り上げられている場面においてである。したがって、学習者の自己評価では、『SFJ』の各課の言語行動を行うことができるかを問うことにした。さらに、各コースが目標としている書記能力、読み書きと口頭表現能力を加えて、33の項目を作成した（表4）。

4. 調査の実施

実施時期：2012年5月16日～5月31日（1学期の半分をほぼ終えた時点）

調査対象者：J100からJ400の受講生。調査時点で受講していた100名

調査方法：クラスで配布し、クラスで回収

調査項目：受講理由を問う10項目、将来的な学習目標を問う10項目、学習時間を問う項目、自己評価33問、フェイスシート（登録クラスと母語を問う）

使用言語：日本語、英語、中国語（ネイティブによる翻訳またはチェックを受ける）

表 4 自己評価の項目

書記能力	問501 ひらがながすべて書ける
	問502 カタカナがすべて書ける
	問503 ひらがながすべて読める
	問504 カタカナがすべて読める
『SFJ』各課の言語行動	問505 自己紹介ができる
	問506 郵便局で荷物を送ることができる
	問507 レストランで注文することができる
	問508 もの・人の場所を聞くことができる
	問509 分からない言葉の意味を聞くことができる
	問510 受講届けなど簡単な書類の書き方を尋ねることができる
	問511 電話で営業時間を聞くことができる
	問512 授業を休む許可を求めることができる
	問513 風邪など普通の病気で医者を受診することができる
	問514 買い物をするとき、ほしいものを説明できる
	問515 本屋で本を注文することができる
	問516 道の行き方を尋ねることができる
	問517 あげたりもらったりしたことについて話せる
	問518 忘れものについて、電話で問い合わせることができる
	問519 図書館のレファレンスサービスで読みたい本について説明することができる
	問520 電話でタクシーを呼ぶことができる
	問521 コンサートなどに友だちを誘うことができる
	問522 先生の家電話をかけることができる
	問523 先生の家を訪問して話をするができる
	問524 コピーの使い方のような簡単な説明をすることができる
	問525 親しくない人に苦情を言うことができる
	問526 病気の人をお見舞いに行くことができる
	問527 ものを頼むことができる
	問528 頼まれたとき、断ることができる
	問529 旅行の行き先などを友だちと相談して決めることができる
	『SFJ』以外の4技能
問531 大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を読むことができる	
問532 大学生としての生活の中で、身近な話題について文章を書くことができる	
問533 大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を準備して、簡単なスピーチをすることができる	

5. 調査の結果と分析・考察

57名から回答を得た。コース別の回答数と母語を表5に示す。問1と問2の二肢選択では、当てはまるものに○を答えているのみの回答が複数あり、その場合、空欄は×であると判断した。アンケート問題全体の α 係数は、0.96であり、高い内の一貫性を示した。

表5 コース別回答者数と主な母語

コース	回答数	学習者の多い母語と回答者数
J100	25	中国語6、タイ語7、インドネシア語1、スペイン1、その他10
J200	6	中国語1、タイ語0、インドネシア語1、スペイン2、その他2
J300	14	中国語6、タイ語0、インドネシア語2、スペイン0、その他6
J400	12	中国語4、タイ語1、インドネシア語2、スペイン2、その他3

5.1 調査結果：学習時間

学習時間に対する回答を表6に示す。複数回答の場合、便宜上少ないほうに集計した。また「毎日勉強することはできない」にも重複して回答があった2名は表6に重複して示した。全体的に学習レベルが低いコースで学習時間が少ない、または毎日できないと答えた学習者が相対的に多く、高いレベルにおいては、相対的に学習時間が長いことが分かる。

ここから、2.1に示したとおり予習・復習を課せられる本コースにおいては、学習時間が少ない学習者は学習を継続していくことは厳しくなるのではないかと考えられる。一方、高いレベルでは、学習を進めるにともなって学習の必要性を理解して学習時間が増加した、あるいは、長い学習時間を確保できる学習者だけが履修を継続してきた可能性が考えられる。

表6 コース別学習時間（回答者数）

コース	30分以下	30分から 1時間	1時間から 1時間半	1時間半から 2時間	2時間以上	毎日勉強することは できない	無回答
J100	4	4	6	7	3	1	1
J200	0	3	2	1	0	1	0
J300	0	1	2	5	6	0	0
J400	0	2	4	4	2	0	0
合計	4	10	14	17	11	0	1

5.2 日本語学習の理由と将来的な学習目標

補習コース受講の理由と将来的な学習目標をコース別に集計した(表7)。

受講理由を専門の勉強のために日本語が必要だからと答える学習者は、日本語学習の将来の目標を、専門書を読んだり発表したりできるようになることと考えるであろう。このように、受講理由と学習目標には関連があることが予測される。そこで、関連のある質問項目をまとめて学習者が何を指向しているのかを知るために、問1と問2を対象に主成分

分析を行った。

主成分分析は多変量解析の一種で、多くの変数を要約して情報を簡潔に示す方法である。変数の要約 (= 合成) は、合成変数の分散が最大となるように重みづけをして行われる。そうして得られた合成変数を第 1 主成分、第 1 主成分と相関がゼロで分散が最大の合成変数を第 2 主成分と呼ぶ (渡部 1988)。

表 7 問 1、問 2 のコース別回答数

問 項目	100		200		300		400	
	×	○	×	○	×	○	×	○
問 1. 留学生センターの日本語の授業を受ける理由	×	○	×	○	×	○	×	○
問101 日本語に興味があるから	3	22	1	5	1	13	1	11
問102 日常生活で日本語が必要だから	3	22	1	5	0	14	2	10
問103 日本人と話せるようになりたいから	2	23	0	6	0	14	0	12
問104 入試のために日本語が必要だから	24	1	5	1	9	5	10	2
問105 専門の勉強のために日本語が必要だから	17	8	4	2	6	8	5	7
問106 日本の文化に触れてみたいから	3	22	1	5	2	12	2	10
問107 日本を旅行してみたいから	4	21	3	3	1	13	1	11
問108 将来日本で働きたいから	13	12	3	3	9	5	7	5
問109 時間があるから	13	12	1	5	9	5	7	5
問110 その他	22	3	5	1	12	2	10	2
問 2. 日本語を勉強して、将来的にできるようになりたいこと	×	○	×	○	×	○	×	○
問201 日本での日常生活にこまらなくなりたい	2	23	1	5	3	11	1	11
問202 大学のサークルに参加したい	10	15	5	1	9	5	4	8
問203 日本人の学生や先生と日常の話題について話したい	2	23	0	6	0	14	1	11
問204 日本語でメールが書けるようになりたい	8	17	1	5	1	13	1	11
問205 学内の掲示板や事務的な書類が読めるようになりたい	2	23	0	6	1	13	0	12
問206 日本語のテレビや映画が分かるようになりたい	4	21	2	4	1	13	1	11
問207 日本語の小説や新聞が読めるようになりたい	6	19	2	4	3	11	1	11
問208 日本語の授業が聞けるようになりたい	6	19	2	4	4	10	1	11
問209 日本語で専門の発表や質疑応答ができるようになりたい	5	20	2	4	21	2	1	11
問210 日本語でレポートや論文が書けるようになりたい	10	15	4	2	2	12	3	9

主成分分析の結果、7つの主成分が抽出された。第1主成分は12項目の因子負荷量が.40以上を示しており、 α 係数は.82と高い内的一貫性を示した。また第2主成分は4項目(第1主成分の2項目を含む)が因子負荷量が.40以上を示した。そこで、14項目で再度主成分分析を行い、因子負荷量が.40以上の13項目を得た。そこでさらに13項目で主成分分析を行い、2つの主成分を得た(表8)。 α 係数は.80で高い内的一貫性を示した。各主成分は日本語使用の領域を示しており、第1主成分は、大学における専門に関わる言語コミュニケーションや新聞、小説、映画など文化も含む全般的な熟達した日本語使用を目標とする項目である。そこで「総合的な熟達した日本語使用」とする。一方、第2主成分はすべて日常生活にかかわる事柄であるため、「日常生活での日本語使用」とする。

表 8 受講理由と到達目標13項目に関する主成分分析結果

問	項目	1	2
問207	日本語の小説や新聞が読めるようになりたい	0.722	0.193
問209	日本語で専門の発表や質疑応答ができるようになりたい	0.721	-0.39
問210	日本語でレポートや論文が書けるようになりたい	0.71	-0.293
問208	日本語の授業が聞けるようになりたい	0.667	-0.328
問204	日本語でメールが書けるようになりたい	0.648	-0.023
問206	日本語のテレビや映画が分かるようになりたい	0.573	-0.022
問106	日本の文化に触れてみたいから	0.571	0.268
問105	専門の勉強のために日本語が必要だから	0.528	-0.346
問101	日本語に興味があるから	0.452	0.404
問202	大学のサークルに参加したい	0.424	-0.241
問203	日本人の学生や先生と日常の話題について話したい	0.106	0.705
問201	日本での日常生活にこまらないようになりたい	0.57	0.625
問102	日常生活で日本語が必要だから	0.201	0.569
固有値		31.57	15.44

図 1 は、第 1 主成分を横軸に、第 2 主成分を縦軸にプロットした散布図で、データラベルは学習者のコースを示している。第 1 主成分がマイナスの象限には「総合的な熟達した日本語使用」を目標としない学習者がプロットされている。J100の回答数が多いため全般的にJ100の学習者が目立つが、第 1 主成分がマイナスの象限にはJ300とJ400の学習者は相

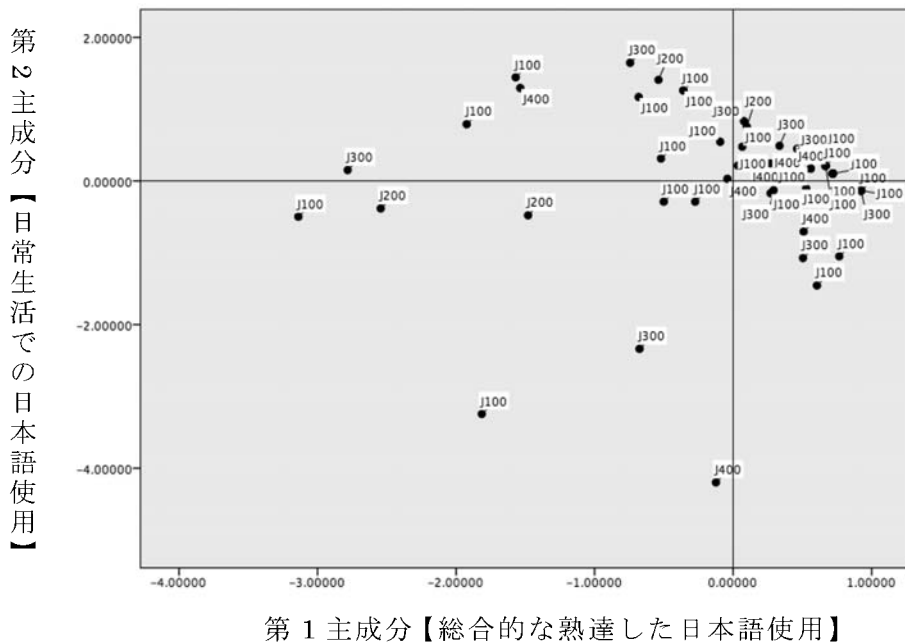


図 1 第 1 主成分と第 2 主成分のプロット (データラベルはコース名)

対的に少ない。レベルが高い学習者のほうがより高い学習目標を持っており、日常生活での使用だけを目標とする学習者はJ100とJ200に相対的に多いことが明らかになった。

5.3 学期途中のCDs

自己評価の項目では、57名の回答のうち、無回答、重複回答を除いて、49名の有効な回答を得た。図2はレベルごとの合計点の散布図である。黒い矢印で記したJ100の学習者Aの合計は131点で、問506以降の回答はほぼ4（ある程度できる）である。問533「大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を準備して、簡単なスピーチをすることができる」も4（ある程度できる）と答えるなど、不自然であるため、この回答を以後のCDs分析から除くことにする。以下は、学習者Aを除く48名を対象とした分析である。

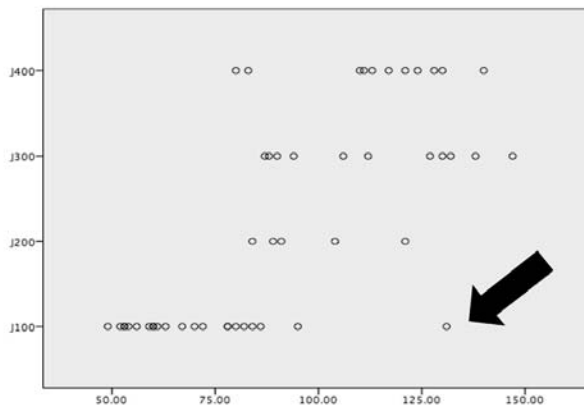


図1 コース別 (CDs) 合計

CDs33項目の平均値、標準偏差を算出した。3項目（問522、問523、問533）は、（平均値-1SD）が0.91から0.99とややフロア効果が見られるが、1に近い値でありそのまま分析する。33項目の α 係数は.97と高い内的一貫性が見られた。

33項目を対象に因子分析を行った。初期解として主因子解を用いた。相関行列の固有値は大きい順に、18.53、3.26、2.04、1.28と変化していることから、3因子と仮定し、次に主因子法によるプロマックス解を求めた。回転後の因子パターンを表9に示す。また、因子間相関を表10に示す。

因子1は、問530「簡単な日本語で意見を言ったり、意見を交換したり、することができる」、問531「大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を読むことができる」など学術的場面で必要なスキルや、問518「忘れものについて、電話で問い合わせることができる」、問513「風邪など普通の病気で医者を受診することができる」な

どを含み、初級としては高い日本語能力を要する項目である。そこで「難しい言語行動」と名付ける。因子2は、問508「もの・人の場所を聞くことができる」から問505「自己紹介ができる」のような日常生活で頻繁に起こりうる項目からなるため、「易しい言語行動」とする。因子3はひらがなカタカナに関する項目であり、「書記能力」とする。以上、CDsから初級日本語能力に関わる3つの因子が得られた。

表9 CDsの因子分析結果（プロマックス回転後の因子パターン）

問	項目	I	II	III
問522	先生の家に電話をかけることができる	0.98	-0.18	0.09
問533	大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を準備して、簡単なスピーチをすることができる	0.94	-0.23	0.10
問525	親しくない人に苦情を言うことができる	0.94	-0.14	0.03
問532	大学生としての生活の中で、身近な話題について文章を書くことができる	0.93	-0.14	0.07
問527	ものを頼むことができる	0.92	-0.10	-0.02
問528	頼まれたとき、断ることができる	0.87	-0.04	-0.11
問529	旅行の行き先などを友だちと相談して決めることができる	0.85	0.08	-0.16
問520	電話でタクシーを呼ぶことができる	0.82	0.05	0.05
問531	大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を読むことができる	0.78	0.02	0.16
問530	簡単な日本語で意見を言ったり、意見を交換したり、することができる	0.77	0.12	-0.04
問526	病気の人をお見舞いに行くことができる	0.77	0.10	-0.12
問518	忘れものについて、電話で問い合わせることができる	0.76	0.16	0.02
問523	先生の家を訪問して話をすることができる	0.74	0.00	0.13
問519	図書館のレファレンスサービスで読みたい本について説明することができる	0.69	0.25	-0.09
問524	コピーの使い方のような簡単な説明をすることができる	0.66	0.20	0.00
問521	コンサートなどに友だちを誘うことができる	0.64	0.21	0.06
問513	風邪など普通の病気で医者を受診することができる	0.52	0.40	0.12
問512	授業を休む許可を求めることができる	0.52	0.46	-0.03
問514	買い物をするとき、ほしいものを説明できる	0.46	0.43	-0.05
問517	あげたりもらったりしたことについて話せる	0.45	0.45	-0.04
問508	もの・人の場所を聞くことができる	-0.17	0.95	0.08
問509	分からない言葉の意味を聞くことができる	-0.03	0.88	-0.08
問507	レストランで注文することができる	0.02	0.84	0.08
問505	自己紹介ができる	-0.23	0.62	0.18
問511	電話で営業時間を聞くことができる	0.22	0.60	0.10
問506	郵便局で荷物を送ることができる	0.15	0.59	0.11
問510	受講届けなど簡単な書類の書き方を尋ねることができる	0.34	0.56	-0.12
問515	本屋で本を注文することができる	0.39	0.53	-0.09
問516	道の行き方を尋ねることができる	0.39	0.45	-0.13
問504	カタカナがすべて読める	-0.01	0.17	0.92
問501	ひらがながすべて書ける	0.16	-0.16	0.85
問503	ひらがながすべて読める	0.17	-0.04	0.84
問502	カタカナがすべて書ける	-0.25	0.29	0.69

表10 因子間相関（積率相関相関係数）

因子	因子1 難しい言語行動	因子2 易しい言語行動
因子2 易しい言語行動	0.727	
因子3 書記能力	0.112	0.142

次に、得られた下位尺度（因子）と学習者レベルの関係を考察する。各コースの有効回答数は5から21と少ないため、統計的な検定は行わず、記述統計量にもとづいて検討する。3つの下位尺度の平均と標準偏差、 α 係数を表11に示す。

表11から、下位尺度の α 係数は3因子とも高く、内的整合性が高いことが確認された。

表11 CDs下位尺度の平均と標準偏差

	平均	SD	α 係数
難しい言語行動	2.23	0.97	0.98
易しい言語行動	3.17	1.05	0.93
書記能力	4.69	0.57	0.89

表12 CDsコース別下位尺度の平均値

コース	難しい言語行動	易しい言語行動	書記能力
J100	1.38	2.36	4.56
J200	2.53	3.22	4.55
J300	2.91	3.96	4.93
J400	3.01	3.89	4.75

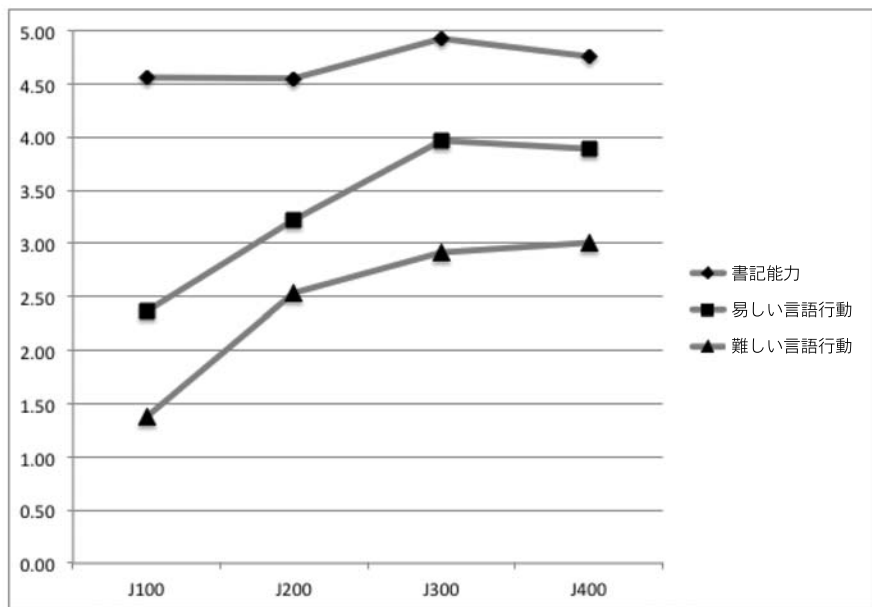


図3 CDsコース別下位尺度の平均値グラフ

コースごとの下位尺度得点平均を表12と図3に示す。「書記能力」はJ100で4.5を超えている。J100では、2012年1学期には、前年まで授業と平行して文字の導入を行っていたのを

改め、授業開始から二週間でひらがなカタカナの導入を行った(堀ほか 2013)。したがって本調査時点ですでに導入を終え、定着が見られる時期であった。そこで、高い自己評価となったと考えられる。

これに対して、J100の言語行動に関する自己評価は、「難しい言語行動」は1に近く、「易しい言語行動」も2に近い。日本語学習を始めて1ヶ月余りで、まだ言語行動ができると感じられないことを示している。

J200では、J100から見ると順調に伸びているが、「難しい言語行動」はあまりできないと感じ、「易しい言語行動」も「ある程度できる」には達していない。このレベルでは習ったことが増えてきて、自己評価も高まりつつはあるが、まだ実際の言語行動に対する自信には結びついていないと言える。

J300とJ400では3つの下位尺度ともほぼ横ばいで、大きな違いは見られない。「易しい言語行動」は「ある程度できる」が、「難しい言語行動」は「どちらとも言えない」と感じている。3.4で示したように、問505から問529までは『SFJ』の学習項目に基づいており、J300は問516までの、J400は問522までの項目を学習し終えた段階に当たる³。表9に示すように、「難しい言語行動」と判断された問512「授業を休む許可を求めることができる」と問513「風邪など普通の病気で医者を受診することができる」はJ200の学習項目である。また、問517「あげたりもらったりしたことについて話せる」から問522「先生の家に電話をかけることができる」まではJ300の学習項目である。しかし、J300もJ400も同様に、これらの項目をできるとは感じていないことが明らかになった。

5.4 CDsに関する考察

前項で示した「難しい言語行動」には大きく分けて2つの種類があると考えられる。問512「授業を休む許可を求めることができる」問522「先生の家に電話をかけることができる」のように、多くの学習者が実際に体験した、あるいは似たような経験をした可能性のある事柄(教師の家にではなくても留学生センターや研究室に電話した経験はあるかもしれない)と、問513「風邪など普通の病気で医者を受診することができる」問518「忘れものについて、電話で問い合わせることができる」のように、多くの学習者が実体験がないかもしれない事柄とに分かれる。根岸(2006)は、CDsの評価と、実際のテスト(リーディング、ライティング、スピーキング)と海外ホームステイでのジャーナル調査とを行い、「経験値の高い学習者」や「能力の高い学習者」の自己評価は信頼性が高いと指摘している。したがって、本調査においても学習者の実体験の可能性によって、分けて考察したほうがよいと思われる。

まず、問512「授業を休む許可を求めることができる」のように経験したことがあるかもしれない事柄でも「ある程度できる」に至らない項目は、相手が教師であるために敬語

の使用に自信がないことや、理由を説明するなど談話の流れなどを十分にコントロールできると思われないことによって評価が低くなった可能性がある。これらは、授業の中や事務連絡等において何度も経験をさせることで「できる」と感じさせていくことが必要であろう。また、既知の文法、表現のうち、何を使えば遂行できるのかを機会あるごとに示していくことが必要であると思われる。

次に、問513「風邪など普通の病気で医者を受診することができる」のように実際に経験した可能性が高くない項目については、根岸(2006)が指摘するように自己評価の信頼性は高くない可能性がある。しかし、これらはたとえ実体験がなくても、既知の文法、表現を使って、適切な語彙を用いれば言語行動ができることを理解させ、授業でも繰り返し取り上げることが必要であろう。

最後に、J300とJ400では3つの下位尺度がほぼ同じであったことに関して、今回の調査ではこの理由を考察するだけの資料は持たないが、J400の学習者には既習の事柄が「わかる」だけでなく「できる」と感じさせるような体験をさせていくことが今後の課題であると思われる。

5.5 学習の理由、学習目標とCDsとの関連に関する考察

学習理由と学習目標に関する調査から、「日常生活での日本語使用」だけでなく、「総合的な熟達した日本語使用」を学習目標にしている学習者がJ300とJ400に多いことが明らかになった。

一方、初級補講コースの目標は「日常的で具体的な話題についてコミュニケーションできること」と簡単な読み書きのスキルであるが、CDs調査の結果は、「書記能力」「易しい言語行動」「難しい言語行動」の3つの下位尺度に分かれた。自己評価ではJ300までは順調に伸びが見られるが、J300とJ400に差はなく、「易しい言語行動」はある程度できると感じられているが、「難しい言語行動」はできるとは感じられていないことが明らかになった。どちらも日常生活の具体的なコミュニケーション行動であり、彼らが将来的な目標としている「総合的な熟達した日本語使用」を身につけるためには、初級レベルの言語行動は初級で達成していなければならないだろう。このことから、学習者の目標と今できていることの間にはギャップがあることがわかる。

「難しい言語行動」の中には、すでに習った文法、表現を使って、適切な語彙を用いれば遂行できるはずであるが、学習者自身はそれに気づいていないものが含まれていると思われる。したがって、文法、文型の正確さだけでなく、機能を十分理解させ、言語行動につなげる必要があると言えるであろう。

6. まとめ

本研究では、多様な学習者を受け入れている初級補習コースの学習者について具体的に知るために、アンケート調査を行った。彼らの受講理由、将来的な学習目標と、習っているコースの目標に対してどの程度できると評価しているかについて調査した。その結果、4点が明らかになった。

- 1) 学習時間：J100では学習時間が少ない、または毎日できないと答えた学習者が相対的に多く、高いレベルにおいては、相対的に学習時間が長いことが明らかになった。予習、復習を課されている本コースでは、学習時間が短い学習者は学習を継続していくことは厳しくなるのではないかと考えられる。
- 2) 補習コース受講の理由と将来的な学習目標：主成分分析の結果、2つの主成分が抽出された。「総合的な熟達した日本語使用」「日常生活での日本語使用」である。そして、よりレベルの高い学習者のほうが高い目標を持っていることが明らかになった。
- 3) CDs調査：「書記能力」、「易しい言語行動」、「難しい言語行動」の3つの下位尺度が抽出された。J100の学習者も「書記能力」に関して「ある程度できる」と「問題なくできる」の中間に達しており、学期の初めに文字の指導を終えたことで学習者が書記能力に自信を持って学習に臨んでいることがうかがえる。

『SFJ』の学習項目とコースが目標とする言語行動に基づいて作成された能力記述文のうち、日常生活で頻繁に起こりうる項目からなる「易しい言語行動」は、J100からJ300まで順調に自己評価も上がり、「ある程度できる」に達する。一方で、「難しい言語行動」には、教師を相手とする場面、病気、忘れもの、見舞いといった日常の出来事ではあっても頻度の高くない出来事や学術的場面で必要なスキルが含まれており、J300とJ400とものできるとは言えないと感じていることが明らかになった。

- 4) 受講理由、将来的な学習目標とCDs調査の関連：将来的な学習目標を「総合的な熟達した日本語使用」としていても、CDsでは日常生活の中の「難しい言語行動」はできると感じていないことが示され、両者の間にはギャップがあることが明らかになった。

以上のように、初級補習コースの学習者は、1)から4)に示したような側面を持つことが明らかになった。そこで、教える側は以上の4点を踏まえて、学習者の学習を支援していくことが必要であろう。

筑波大学では、2013年度から2学期制に移行する。これに伴って留学生センターの日本語授業も改編されるが、その時にも本調査で得られた知見が生かされ、学習者支援の一助となることを期待する。

謝辞

調査用紙作成と調査実施にあたり、多くの先生方と受講生にご協力を得ました。心から感謝します。

注

1. 「開設授業科目一覧」より。
2. 英語コースの学類留学生。
3. すべての受講者が補講コースのはじめから進級してくるわけではない。新たに履修しようとする者がプレースメントテストを受けて、J300やJ400のコースに配置されることもある。したがって、個々の学習者は習っていないこともあり得る。コースのレベルとして学習を終えた段階にある。

参考文献

- 石上綾子・柳田しのぶ・宮崎恵子（2011）「〈報告〉2010年度日本語予備教育夏学期コース報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：99-115
- 小野寺志津（2008）「〈報告〉話す能力を育てるための試み：初級後半コースにおいて」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』23号：53-65
- 加納千恵子（2008）「2007年度日本語補講コースの改編報告：カリキュラムの改編と技能別シラバスの整備」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』23号：135-146
- 加納千恵子・小林真紀子・関裕子・柳田直美・石上綾子（2010）「〈報告〉初級後期日本語授業の目標と課題－2009年度『J400』コースの実践報告－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』25号：67-86
- 木戸光子（2006）「日本語補講コース授業アンケートの目的と方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』21号：119-129
- 小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子（1995）『わくわく文法リスニング』凡人社
- 酒井たか子（2004）「留学生センター日本語教育カリキュラム改善に向けて：留学生の指導教官へのアンケート調査報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』19号：31-52
- 関裕子（2010）「〈報告〉ディベートに向けた活動と成果・課題：2008年度初級後期『J400』コースでの実践報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』25号：57-66
- 筑波ランゲージグループ（1992）『Situational Functional Japanese』凡人社
- 永井涼子（2009）「〈報告〉初級におけるディベート準備授業の試み」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』24号：85-95
- 根岸雅史（2006）「GTEC for STUDENTS Can-do Statements の妥当性検証研究概観」『ARCLE REVIEW』1号：96-103
- <<http://www.arclj.jp/research/books/data/html/0002.html>>（2012年9月9日閲覧）
- 堀恵子・石上綾子・今井新悟・小野寺志津・木戸光子・小浦方理恵・近藤幸子・酒井たか

子・高原真理・段麗君・許明子・李在鎬 (2013) 「筑波大学留学生センター初級日本語補講コース授業報告—『J100』から『J400』の取り組みと授業改善—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：151-173

渡部洋編著 (1988) 『心理・教育のための多変量解析法入門 [基礎編]』福村出版

資料 アンケート用紙

日本語と日本語の授業^{じゆぎょう}についてのアンケート

このアンケートは、留学生センター^{りゅうがくせい}の日本語の授業^{じゆぎょう}をよくするために、みなさんに日本語の学習^{がく}について考えを聞くものです。調査は成績^{せいせき}と関係ありませんから、ありのままを答えてください。

調査は無記名^{むきめい}です。答えた個人^{こじん}は特定^{とくてい}されません。

調査結果^{ちやうさけつ}は、留学生センターの授業^{じゆぎょう}の改善^{かいぜん}に役立^{やくだ}てます。その他^{ほか}、日本語教育^{にほんごきょういく}に関する研究^{けんきゅう}として発表^{はつぷう}することもあります。ご協力^{きょうりやく}、よろしくお願^{ねが}いします。

問1. 留学生センター^{りゅうがくせい}の日本語の授業^{じゆぎょう}を受けること^うにした理由^{りゆう}を教^{おし}えてください。当てはまるものに○を、当てはまらないものには×を、() に書^かいてください。

- ① 日本語^{にほんご}に興味^{きょうみ}があるから。 ()
- ② 日常生活^{にちじようせい}で日本語^{にほんご}が必要^{ひつよう}だから。 ()
- ③ 日本人^{にほんじん}と話^{はな}せるようになりたいから。 ()
- ④ 入試^{にゅうし}のために日本語^{にほんご}が必要^{ひつよう}だから。 ()
- ⑤ 専門^{せんもん}の勉強^{べんきょう}のために日本語^{にほんご}が必要^{ひつよう}だから。 ()
- ⑥ 日本^{にほん}の文化^{ぶんか}に触^ふれてみたいから。 ()
- ⑦ 日本^{にほん}を旅行^{りょこう}してみたいから。 ()
- ⑧ 将来^{しょうらい}日本^{にほん}で働^{はたら}きたいから。 ()
- ⑨ 時間^{じかん}があるから。 ()
- ⑩ その他^た ()

問2. 日本語^{にほんご}を勉強^{べんきょう}して、将来^{しょうらい}的にできるようになりたいこと^あはなんですか。当てはまるものに○を、当てはまらないものには×を、() に書^かいてください。

- ① 日本^{にほん}での日常生活^{にちじようせい}にこまらないようになりたい。 ()
- ② 大学^{だいがく}のサークル^{さーくる}に参加^{さんか}したい。 ()
- ③ 日本人^{にほんじん}の学生^{がくせい}や先生^{せんせい}と日常^{にちじよう}の話題^{わだい}について話^{はな}したい。 ()
- ④ 日本語^{にほんご}でメール^{まいる}が書^かけるようになりたい。 ()
- ⑤ 学内^{がくせい}の掲示板^{けいじばん}や事務^{じむ}的な書類^{しよるい}が読^よめるようになりたい。 ()
- ⑥ 日本語^{にほんご}のテレビ^{てれび}や映画^{えいが}が分^わかるようになりたい。 ()

- ⑦ 日本語の小説や新聞が読めるようになりたい。 ()
- ⑧ 日本語の授業が聞けるようになりたい。 ()
- ⑨ 日本語で専門の発表や質疑応答ができるようになりたい。 ()
- ⑩ 日本語でレポートや論文が書けるようになりたい。 ()

問3. 日本語を勉強する時間は、毎日どのくらいありますか。当てはまるものに () に○を書いてください。

- ① 30分以下 () ④ 1時間半から2時間 ()
- ② 30分から1時間 () ⑤ 2時間以上 ()
- ③ 1時間から1時間半 () ⑥ 毎日勉強することはできない。()

問4. 統計的処理のため、あなたについて教えてください。

- (1) 留学生センターの日本語クラスはどれですか。 J100, J200, J300, J400
- (2) 母語は何語ですか。 () 【裏面もあります】

問5. 今、日本語で次のことがどのくらいできますか。下の表現を参考にして、5から1までの数字に○をつけてください。線の上には○をつけしないでください。

5-----	-----4-----	-----3-----	-----2-----	-----1
問題なくできる	ある程度できる	どちらとも言えない	あまりできない	全然できない

(1) ひらがながすべて書ける	5--4--3--2--1
(2) カタカナがすべて書ける	5--4--3--2--1
(3) ひらがながすべて読める	5--4--3--2--1
(4) カタカナがすべて読める	5--4--3--2--1
(5) 自己紹介ができる	5--4--3--2--1
(6) 郵便局で荷物を送ることができる	5--4--3--2--1
(7) レストランで注文することができる	5--4--3--2--1
(8) もの・人の場所を聞くことができる	5--4--3--2--1
(9) 分からない言葉の意味を聞くことができる	5--4--3--2--1
(10) 受講届けなど簡単な書類の書き方を尋ねることができる	5--4--3--2--1
(11) 電話で営業時間を聞くことができる	5--4--3--2--1
(12) 授業を休む許可を求められることができる	5--4--3--2--1
(13) 風邪など普通の病気で医者を受診することができる	5--4--3--2--1
(14) 買い物をするとき、ほしいものを説明できる	5--4--3--2--1
(15) 本屋で本を注文することができる	5--4--3--2--1
(16) 道の行き方を尋ねることができる	5--4--3--2--1
(17) あげたりもらったりしたことについて話せる	5--4--3--2--1
(18) 忘れものについて、電話で問い合わせることができる	5--4--3--2--1
(19) 図書館のレファレンスサービスで読みたい本について説明することができる	5--4--3--2--1
(20) 電話でタクシーを呼ぶことができる	5--4--3--2--1
(21) コンサートなどに友だちを誘うことができる	5--4--3--2--1
(22) 先生の家で電話をかけることができる	5--4--3--2--1
(23) 先生の家を訪問して話をするすることができる	5--4--3--2--1
(24) コピーの使い方のような簡単な説明をすることができる	5--4--3--2--1
(25) 親しくない人に苦情を言うことができる	5--4--3--2--1
(26) 病気の人をお見舞いに行くことができる	5--4--3--2--1
(27) ものを頼むことができる	5--4--3--2--1
(28) 頼まれたとき、断ることができる	5--4--3--2--1
(29) 旅行の行き先などを友だちと相談して決めることができる	5--4--3--2--1
(30) 簡単な日本語で意見を言ったり、意見を交換したり、することができる	5--4--3--2--1
(31) 大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を読むことができる	5--4--3--2--1
(32) 大学生としての生活の中で、身近な話題について文章を書くことができる	5--4--3--2--1
(33) 大学生としての生活の中で、身近な話題について書いた文章を準備して、簡単なスピーチをすることができる	5--4--3--2--1